

研究・調査報告書

報告書番号	担当
218	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Maternal alcohol consumption, alcohol metabolism genes, and the risk of oral clefts: a population-based case-control study in Norway, 1996-2001. 母体の飲酒量、アルコール代謝遺伝子と口唇口蓋裂リスク： ノルウェーにおける人口ベースの症例対照研究, 1996-2001 年</p>	
執筆者	
Boyles AL, DeRoo LA, Lie RT, Taylor JA, Jugessur A, Murray JC, Wilcox AJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2010 Oct 15;172(8):924-31. PMID: 20810466	
キーワード	
飲酒、アルコール飲料、口唇裂、口蓋裂、遺伝調査、母体暴露、妊娠	
要 旨	
<p>目的： 母体の妊娠早期の多量飲酒は口唇口蓋裂リスクを上昇させるが、この関連にアルコール代謝の遺伝多型がどのように影響するかはほとんどわかっていない。アルコール脱水素酵素 1C (ADH1C) 遺伝子の多型が飲酒と口唇口蓋裂の関連を修飾するかも知れない。</p> <p>方法： ノルウェーにおける人口ベースの症例対照研究 (1996-2001) において、アルコール代謝の早さの表現型を規定する母体および児の ADH1C ハプロタイプによる、母体の飲酒量と口唇口蓋裂リスクとの関連の違いを検討した。対象者は 483 口唇口蓋裂奇形と、この期間の全ての出生から無作為抽出された 503 の対照出生児およびその母親である。</p> <p>結果： 妊娠初期 (第一三半期) に 1 回 5 杯以上飲酒した母体では、口唇口蓋裂児出生リスクが上昇した (オッズ比 2.6, 95%信頼区間(CI): 1.4, 4.7)。低いアルコール代謝を伴う ADH1C ハプロタイプを持つ母体または児においてのみこのリスク上昇が認められた (オッズ比 3.0, 95%CI: 1.4, 6.8)。母体、児とも早いアルコール代謝を伴う ADH1C 多型を持つ場合、因習関連リスクは認められなかった (オッズ比 0.9, 95%CI: 0.2, 4.1)。</p> <p>結論： アルコールによる催奇形性は、母体および児のアルコール代謝に対する遺伝的能力に依存することが示唆された。</p>	